

# 鈴鹿市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)※目標値の確認

- ・本市における温室効果ガス総排出量は、二酸化炭素排出量が約95%を占める。(表1)
- ・本市は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、鈴鹿市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)を策定し、以下の①、②の二酸化炭素排出量をそれぞれ目標値としている。(表2)
  - ①市の事務事業から生じる「エネルギー起源二酸化炭素排出量」
  - ②一般廃棄物の焼却から生じる「非エネルギー起源二酸化炭素排出量」

◆(表1)温室効果ガス総排出量

2013(H25)年度(基準年度) (トン-CO2)

	二酸化炭素	メタン	一酸化二窒素	HFC	総排出量
排出量	30,276 (95.3%)	359 (1.1%)	1,146 (3.6%)	4	31,785 (100%)

内訳: エネルギー起源二酸化炭素 19,196  
非エネルギー起源二酸化炭素 11,080

2022(R4)年度 (トン-CO2)

	二酸化炭素	メタン	一酸化二窒素	HFC	総排出量
排出量	27,045 (94.2%)	404 (1.4%)	1,253 (4.4%)	4	28,706 (100%)

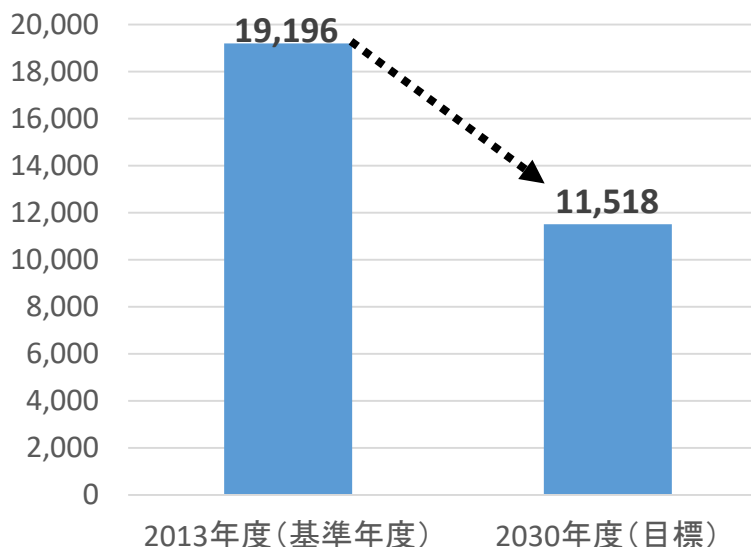
内訳: エネルギー起源二酸化炭素 16,717  
非エネルギー起源二酸化炭素 10,328

◆(表2)二酸化炭素排出量の目標値

## ①エネルギー起源二酸化炭素排出量

2030(令和12)年度までに基準年度(2013(平成25)年度)と比較し、**40%削減**する。

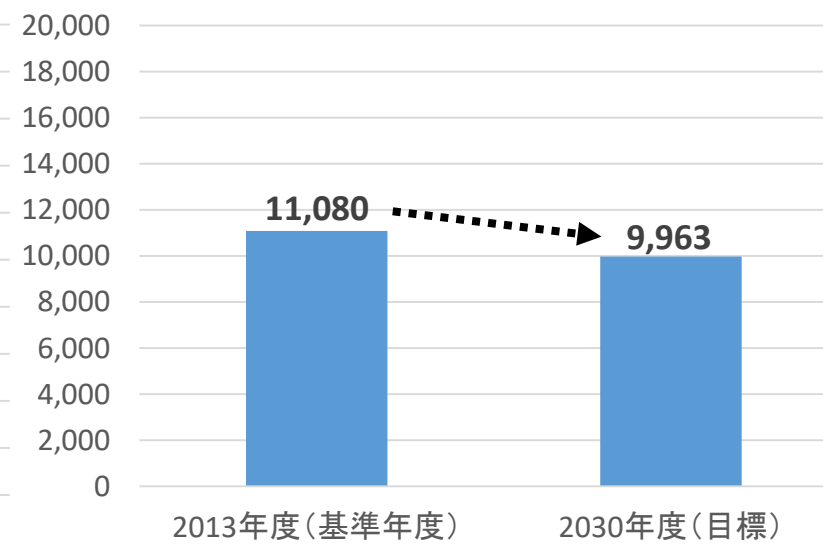
(トン-CO2)



## ②非エネルギー起源二酸化炭素排出量

2030(令和12)年度までに基準年度(2013(平成25)年度)と比較し、**10%削減**する。

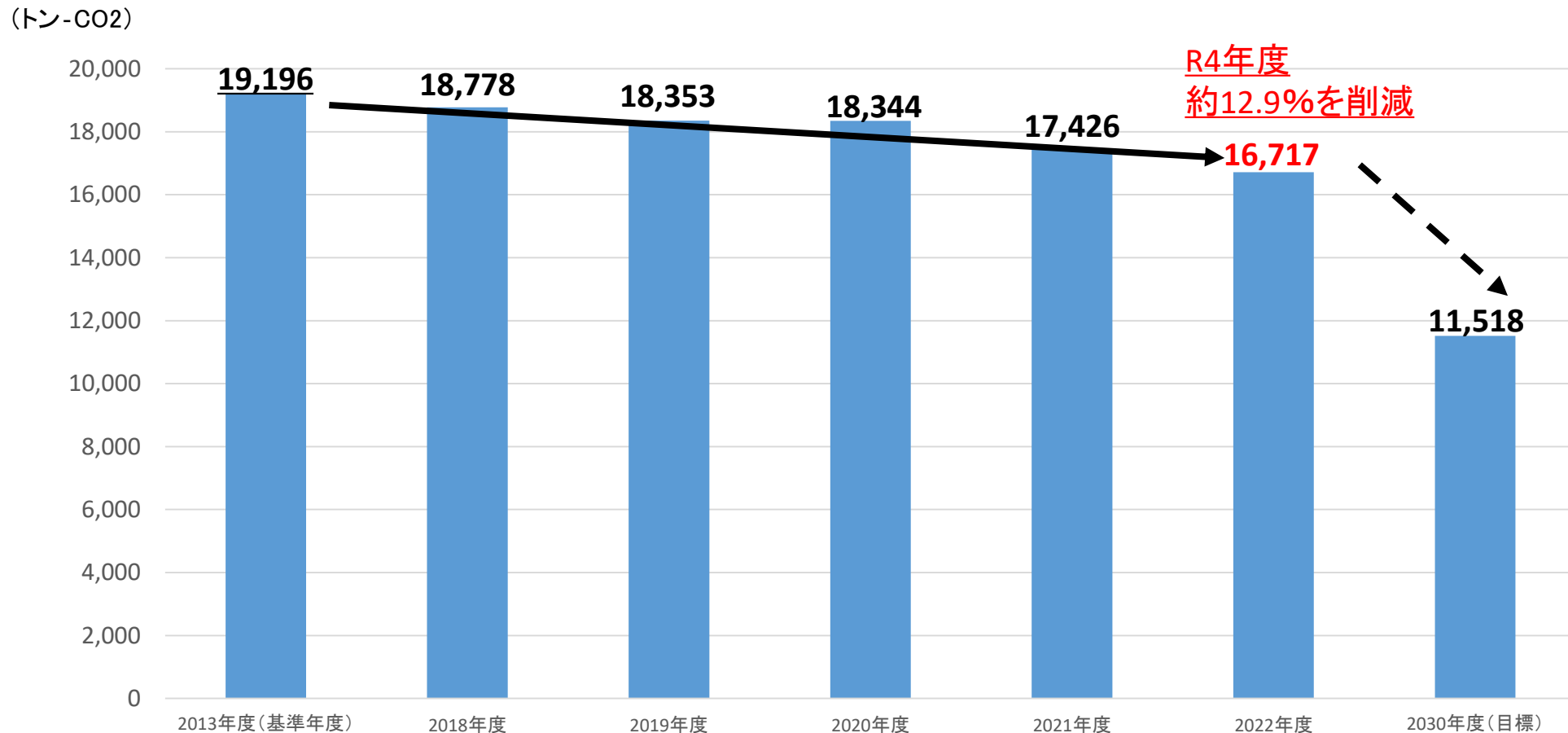
(トン-CO2)



# エネルギー起源二酸化炭素排出量の進捗状況

- ・エネルギー起源二酸化炭素排出量は、2013(平成25)年度の基準年度と比較し、12.9%削減した。
- ・既存契約電気事業者の排出係数の改善、既存施設の省エネ設備への更新により減となった。

◆エネルギー起源二酸化炭素排出量の進捗状況



# 非エネルギー起源二酸化炭素排出量の進捗状況

- ・非エネルギー起源二酸化炭素排出量は、基準年度と比較すると約6.8%程度減少した。
- ・非エネルギー起源二酸化炭素排出量は、プラスチック等の割合に関連しているため、引き続きプラスチックごみの削減の啓発を続け、二酸化炭素排出量の削減に努める。

